

開講年度	令和6年度	開講課程	博士課程
授業名	総合医療医学特別研究		
開講キャンパス	紀三井寺	教室	各研究室
科目区分	特別科目	配当年次	1～4年次
必修・選択の別	選択	単位	1.4単位
対象学生	—	使用言語	日本語
キーワード	(精神医学) 予防精神医学 (放射線医学) 画像下治療(IVR) (リハビリテーション医学) リハビリテーション医学, 運動療法, 理学療法, 作業療法, 言語聴覚療法 (救急・集中治療医学) ガイドライン、アルゴリズム (麻酔科学) 周術期医療、医療安全 (総合診療学) 高齢者、マインドフルネス (総合医療学) 全人的医療 (緩和医療学) 緩和医療		
担当教員 (下線: 科目責任者)	医	(精神医学) 教授 紀本創兵、講師 山田信一 (放射線医学) 教授 園村哲郎、准教授 南口博紀、准教授 生駒 顕 (リハビリテーション医学) 准教授 幸田 剣 (救急・集中治療医学) 教授 井上茂亮、准教授 上田健太郎、准教授 田村志宣、 講師 米満尚史、講師 宮本恭兵 (麻酔科学) 教授 川股知之、准教授 時永泰行 (総合診療学) 教授 廣西昌也 (総合医療学) 教授 村田顕也、准教授 谷本貴志 (緩和医療学) 教授 川股知之、准教授 月山 淑、講師 栗山俊之	
	薬		
授業の概要	精神医学、放射線医学、リハビリテーション医学、救急・集中治療医学、麻酔科学、総合診療学、総合医療学、緩和医療学の各分野において博士論文作成の指導を行う。本特別研究では、研究計画の立案方法を修得するとともに、計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、日々の臨床活動において抱える高度先進医療・地域保健医療の課題解決に向けた研究を実践し、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。		
到達目標	(精神医学) 予防精神医学の概念を念頭に基礎及び臨床研究を理解し、精神疾患に対する見識を深める。この見地から研究の立案と実践をし、臨床応用の可能性について討議することができる。 (放射線医学) 画像下治療(IVR)に関連する論文作成を行う。 (リハビリテーション医学) リハビリテーション医学に関する研究を遂行できる能力を身につける。 (救急・集中治療医学) 救急診療に必要な基礎研究や疫学研究を渉猟し活用することができる。 (麻酔科学) 周術期医療に関する論文を作成する。 (総合診療学) 高齢者特有の心理やストレスについて理解する。高齢者や介護者のストレス緩和手法を評価できる。 (総合医療学) 総合医療の根幹をなす全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な知識や技能を修得し、その成果を学会発表または論文で公開する。 (緩和医療学) 緩和医療に関する論文を作成する。		

授業計画	<p>(精神医学) 精神医学の一次予防から三次予防についての理解を深め、それら見地に立った研究立案と実験について研究指導を行う。(紀本創兵) 得られた研究成果についての解析を指導し、これまでの知見を交えながら適切に検討と解釈を行い、論文作成の指導を行う。(山田信一) 予防精神医学の概念を念頭に研究を立案し、必要な実験や解析について研究指導を行う。得られた結果に基づき、論文作成の指導を行う。(紀本創兵/山田信一)</p> <p>(放射線医学) 新しい塞栓物質についての基礎的実験の方法を教授し、学会発表や論文作成の指導を行う。(園村哲郎/南口博紀/生駒 顕)</p> <p>(リハビリテーション医学) リハビリテーション医学研究に関する指導を行う。(幸田 剣)</p> <p>(救急・集中治療医学) 疾病・疾患の周囲の状況を救急の視点で把握し、既存の基礎研究や疫学研究との関わりについて現状の課題を抽出し、課題解決に向けた研究指導を行う。(井上茂亮/上田健太郎/田村志宣/米満尚史/宮本恭兵)</p> <p>(麻酔科学) 周術期医療分野において博士論文作成の指導を行う。データの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。(川股知之/時永泰行)</p> <p>(総合診療学) 生理学的なストレス解析を通じて、高齢者、認知症者、介護者のwell-beingに関する研究指導を行う。(廣西昌也)</p> <p>(総合医療学) 神経難病・循環器系疾患を有する患者、ADHDなどの発達障害を有する障害者のライフステージに応じた全人的な医療を行うのに必要な臨床医学的、基礎医学的、社会学的な課題について研究指導を行う。(村田顕也/谷本貴志)</p> <p>(緩和医療学) 緩和医療分野において博士論文作成の指導を行う。計画に沿って主導的にデータの収集・解析や実験を遂行する。また、研究成果を発信して社会貢献できる高度な研究能力を身につけるとともに、臨床技能の向上を図る。(川股知之/月山 淑/栗山俊之)</p>
授業の方法・形態	演習を中心とする。
使用するメディア	パワーポイント等によるスライド資料を使用する。
成績評価の基準	研究への取組100%(研究課題の設定内容、研究の遂行状況)によりS(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、D(59点以下)の5段階で評価し、C以上を合格とする。
授業時間外の学修に関する指示	教科書・参考書が指定されている場合は予習を行うとともに、各回終了後には復習を行うこと。そのほか、各担当教員の指示に従うこと。
オフィスアワー(学生からの質問事項等への対応)	担当教員により異なるため、希望する場合はメール又は電話により予約すること。

教科書・参考書

(精神医学)

【参考書】「神経科学テキスト第4版 脳と行動」  
監修・翻訳：泰羅雅登、中村克樹 出版社：丸善出版

(放射線医学) 特に指定しない。

(リハビリテーション医学)

【教科書】「リハビリテーション医学・医療コアテキスト」  
監修：一般社団法人 日本リハビリテーション医学教育推進機構  
公益社団法人 日本リハビリテーション医学会

出版社：医学書院

(救急・集中治療医学) 特に指定しない。

(麻酔科学) 特に指定しない。

(総合診療学)

【教科書】特に指定しないが、担当者が作成した資料を配布する

【参考書】「マインドフルネスストレス軽減法」 著者：ジョン・カバットジン  
訳者：春木豊 出版社：北大路書房

(総合医療学)

【参考書】「老年医学系統講義テキスト」 編集：日本老年医学会 出版社：西村書店

(緩和医療学) 特に指定しない。